

診療内容説明書

令和01年11月08日

患者名

病名: 右前腕コンパートメント症候群

・右腕の筋肉の内圧が高くなっています。放っておくと血流が悪くなって筋肉自体が壊死してしまう可能性が高いです(コンパートメント症候群)。

・筋肉を覆っている膜(筋膜)を切開して圧力を逃がす手術をお勧めします。

手術名: 右前腕筋膜切開術

・右腕に15cmほど切開を加え、そこから鉗を入れて筋膜を切離します。

・筋肉が膨らんで圧力が下がったことを確認してから、皮膚だけを縫合します。

・皮膚がきつい場合は、開けたままにしておき、腫れが引けてから後日縫合することもあります。

合併症

・感染: 抗生物質で予防します。発症した場合、再手術の可能性あります。

・神経血管の損傷: 万一これらが傷ついた場合は、すぐに縫合して治します。

・筋肉、関節の拘縮: 筋膜切開をしても部分的に筋肉が壊死していれば、筋肉が硬くなって膝や足首、足の指の曲げ伸ばしが悪くなります。リハビリで対応します。

・筋力の低下: 筋膜切開までに筋肉が壊死していれば、その量に応じて筋力が低下する危険性があります。

・CRPS: 原因は不明ですが、手のケガ、手術をきっかけに、手の慢性的な痛み、しびれ、骨の萎縮等の症候群を発症することがあります。

・その他予期せぬ合併症が生じたら、検査、説明、治療を行い、対応致します。

腕神経叢ブロックについて

・麻酔薬を約20ml注射するため、局所麻酔剤の中毒(悪心、嘔吐、痙攣)を発症する事があります。

・神経の奥にある肺に穴が開いて空気が漏れて気胸になることがあります。気胸については、軽症の場合は経過観察で改善しますが、重症の場合は胸に管を挿入する治療が必要となります。

署名

患者名

説明者 亀田 拓哉

同席者

エマ ノリコ

昭和 19 年 05 月 03 日 女性
整形外科

QRエリア

同意書

令和 01 年 11 月 08 日

いわき市医療センター病院長 様

この度、私が貴院において（ 筋膜切開術 ）を受けるにあたり、担当医からその内容について別紙（ 診療内容説明書 ）のごとく十分な説明を受け、診療上必要である事を理解いたしましたので、その実施に同意します。

尚、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には、適宜処置されることについても同意します。

患者氏名

（注）本人が未成年または署名できない場合は

下記にご記入ください

保護者または

保証人氏名

住 所

電 話

患者との続柄

診療科名

整形外科

説明医師名

亀田 拓哉